

# 平成29年度 学校マネジメントシート

学校名 ( 津西高等学校 )

## 1 目指す姿

(1) 目指す学校像		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高い志と広い視野を持ち、地域をリードする人材を育成する学校</li> <li>○ これからの社会を生き、未来を切り拓いていくのに必要な資質、能力を培う学校</li> <li>○ 確かな学力と豊かな人間性を育み、進路希望を実現する文武両道の進学校</li> </ul>
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習や部活動をはじめとする特別活動に意欲的に取り組み、社会で生きるのに必要な力とそれを支える確かな学力、豊かな人間性を身につけた生徒</li> <li>○ 高い志を持って主体的に考え、行動するとともに、互いを認め合い、豊かな人間関係を築くことのできる生徒</li> </ul>
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 目指す学校像実現のために組織的に取り組み、生徒とともに成長しつづける教職員</li> <li>○ 生徒一人ひとりの可能性を引き出し、生きる力の育成と進路実現のためにサポートを惜しまない教職員</li> </ul>

## 2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		≪生徒≫ ○ 学力の向上と学校生活の充実、進路希望の実現 ≪保護者≫ ○ 安心・安全で充実した学校生活と学力の向上、進路希望の実現 ≪地域≫ ○ 地域を支え、リードする人材の育成とそれによる地域の活性化	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	≪中学校≫ ○ 学校や生徒の状況、選抜情報などの情報提供 ≪進学先≫ ○ 確かな学力と主体的に学ぶ力 ≪地域≫ ○ 人材育成と地域貢献	≪中学校≫ ○ 基礎学力と高校生活への意欲 ≪進学先≫ ○ 自己実現のための連携と情報提供 ≪地域≫ ○ 教育活動への理解と支援	
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域のリーダーとしての人間力育成が課題である。</li> <li>○ 進学目標の実現と魅力ある西高づくりのため、国際科学科の充実と普通科の特色化に取り組んでほしい。</li> <li>○ 高大接続改革や新しい学力観を視野に入れた学力向上、教職員の資質向上のための取組が必要である。</li> </ul>	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の多くが勉強と部活動の両立に努めるなど、充実した学校生活を送っている。素直で真面目な生徒が多く、熱心で懇切丁寧な学習指導、進路指導の結果、多数の生徒が国公立大学に進学するなど進路実現を果たしている。</li> <li>○ 確かな学力を身につけ、高い志と広い視野を持ち、主体的に考え、行動する生徒を育成し、難関大学に合格できるよう生徒の可能性を引き出すことが求められる。</li> </ul>	
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教職員は生徒一人ひとりの学力向上や豊かな人間性の育成のために、教科指導や進路指導、部活指導をはじめ様々な教育活動に前向きに取り組んでおり、それが生徒の進路実現や地域、中学校の評価につながっている。</li> <li>○ 新しい学力観を視野に入れた高い志と広い視野を持った生徒の育成、社会で生きる力の養成、難関大学合格者増のための組織的取組とシステム構築が課題である。</li> </ul>	

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高い志と広い視野を持ち社会で活躍する人材の育成、難関大学合格のための学力向上のために、生徒の可能性を引き出す計画的な教育活動や取組を推進する。</li> <li>○ 主体的、協働的な学びや活動を通して、確かな学力と社会で生きる力（主体性、協働性、課題発見・解決能力、コミュニケーション能力など）を身につける。</li> <li>○ 命を大切にする教育に取り組み、自己肯定感を高め、一人ひとりが大切にされる人権感覚あふれる学校づくりを推進する。</li> </ul>
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高い志と広い視野を持った生徒の育成、社会で生きる力の養成、難関大学合格者増のための体制づくりやシステム構築に取り組む。</li> <li>○ 新しい学力観や高大接続改革を視野に入れ、確かな学力と社会で生きる力を育成するために、授業力向上や研修、カリキュラムの改善に取り組む。</li> <li>○ 教職員が健康で意欲的に働くことができるよう総勤務時間の縮減に取り組む。</li> </ul>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。  
 【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。  
 【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
高い志と社会で生きる力を持った生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高い志と広い視野を持った生徒を育成するため、大学、地域等と連携して以下の取組を行う。</li> <li>① 津西SPP(サイエンスパートナーシッププログラム)</li> <li>② 津西グローバルチャレンジプロジェクト</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 「津西SPP」の取組に対する生徒の満足度80%以上</li> <li>② 「津西グローバルチャレンジプロジェクト」参加生徒の満足度80%以上</li> </ul> <li>○ 「ようこそ先輩」、「一日総合大学」等の取組や日ごろの教育活動を通してキャリア教育を推進する。</li> <li>○ 授業や課外の充実、計画的で個に応じた進路指導により、学力の向上と進路希望の実現を図る。</li> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国公立大150名以上、難関大学20名以上、東大・京大1名以上の合格。</li> </ul> <li>○ 校門指導等により、遅刻の防止や挨拶の励行を徹底する。</li> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遅刻数前年度比 10%減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①達成 興味関心が持てた 83% 今後を活かしたい 75%</li> <li>②達成 エンパワメントプログラム 知的好奇心が高まった 95% 自ら考え行動する姿勢が身についた 90%</li> </ul> <p>国公立大合格者 現役 163名、浪人 22名 難関大合格者 現役 6名、浪人 1名</p> <p>未達成 704件 (昨年度 546件)</p>	◎    ※
命を大切にする教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業、特別活動など、すべての教育活動を通して一人ひとりが大切にされる「人権感覚あふれる学校づくり」を推進し、自己肯定感を高める。</li> <li>○ 「命を大切にする教育」という観点で人権教育、特別支援教育、道徳教育に取り組む。</li> </ul> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①主体的、協働的な授業、教育活動を推進し、自己肯定感を高める。</li> <li>②生徒理解と情報共有のためすべての新入生の出身中学を訪問する。</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3年生対象アンケートで「自分が好きだ」と回答した生徒の割合 70%以上</li> </ul> <li>○ 交通事故の防止を中心とした交通安全教育を推進する。</li> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交通事故件数 前年度比20%減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①2年生の総合学習において、課題研究を実施した。</li> <li>②海外からの帰国生徒を除き、全ての出身中学校を訪問した。</li> </ul> <p>未達成 「自分が好きだ」52.6% (入学時 51.4%)</p> <p>未達成 11件 (昨年度 13件)</p>	◎

#### 改善課題

- ・ 大学や地域との連携は進みつつあるが、特に課題研究のために、外部との一層の連携が必要である。
- ・ 上位者育成プログラムの基本プログラムはできたが、今後、各時期における学年の指導、また教科の指導等の具体策を整備し、共通理解を進めていく必要がある。

## (2) 学校運営等

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学力、授業力の向上のための組織的取組	<p>○ 「何を学ぶか」だけでなく、「何ができるようになるか」、「どのように学ぶか」を大切にし、受け身の授業から主体的に学ぶ授業への転換を図るため、授業研究と授業改善に取り組む。</p> <p>【活動指標】</p> <p>① 授業公開週間を中心に授業公開、互見授業を積極的に行う。</p> <p>② 「授業アンケート」の実施(2回以上/年)</p> <p>③ 校内外の研修会への参加(2回以上/年)</p> <p>【成果指標】</p> <p>・ 生徒の授業への満足度90%以上</p> <p>○ 組織的で計画的な学力向上のための取組、進路指導を行う。</p> <p>【活動指標】</p> <p>① 学年主任会の実施(3回/年以上)</p> <p>② 進路研修会の実施(4回/年以上)</p> <p>③ 国際科学科運営委員会、学力検討会議の実施(5回/年以上)</p>	<p>①組織全体としては進まなかった。</p> <p>②生徒・保護者アンケート、授業公開時アンケート実施(3回)</p> <p>③探究活動や授業に関わる校内研修会 2回実施。</p> <p>未達成</p> <p>授業内容を理解 84%</p> <p>学力が向上 75%</p> <p>①6回実施</p> <p>②4回実施</p> <p>③6回実施</p> <p>(国際4回、学力3回)</p>	◎
働きやすい職場環境づくり	<p>○ 教職員の総勤務時間の縮減に取り組む。</p> <p>【活動指標】</p> <p>① 定時退校日を設定する(1回/月)。</p> <p>② 部活動休養日を設定する(1回/週)。</p> <p>③ 会議の短縮、効率化を図る。</p> <p>④ 月80時間以上の時間外労働者の減少</p> <p>【成果指標】</p> <p>① 時間外労働時間の削減(1人当たり1時間/週減)</p> <p>② 休暇取得日数の増加(1人当たり1日/年増)</p>	<p>①1回/月実施</p> <p>②1回/週実施</p> <p>③1時間以内の会議約 80%</p> <p>④昨年度とほぼ同数</p> <p>未達成①月平均過重労働 32.0h(昨年 30h)</p> <p>達成②20.19日</p> <p>18.55日(昨年度)</p>	◎

### 改善課題

・授業改善や探究活動の校内研修会は実施したが、互見授業等は一部の教科を除いて個人レベルにとどまっている。組織的な授業研究を進める必要がある。

・働きやすい職場環境作りのために、仕事の効率化、会議時間の短縮等、具体策が必要である。

## 5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<p>・大人の地域の活動への参加が少なくなっている現在、2年生の「地域をテーマにした課題研究」は、素晴らしい取り組みである。次年度に向けては、研究方法や調べ方を学ぶ(教える)時間を初期段階でしっかり取る必要がある。</p> <p>・高校生の自己肯定感の低さは、本校だけでなく、日本全体の課題でもあるが、重要な視点である。</p>
---------------------	--

## 6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<p>・命を大切にするという視点での人権学習の充実を図る。</p> <p>・2年次生の「地域をテーマにした課題研究」の充実とノウハウの蓄積を図る。そのためにも、大学、地域との一層の連携を図り、生徒が学校の外とつながる機会を増やす。</p>
学校運営についての改善策	<p>・授業改善を進め、受け身の授業から、生徒が自ら考え、話し合っ解決策や答えを作り上げる時間を増やし、主体的・能動的な姿勢を育むとともに、自己肯定感を高める。</p> <p>・会議の終了目標時間を設定し時間の短縮を図るなど、仕事の効率化を進める。</p>